

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那南高等学校 学校運営協議会（第2回）
  - 2 開催日時 令和5年10月19日（木） 13:30～15:30
  - 3 開催場所 恵那南高等学校 会議室
  - 4 参加者

会 長	桜井 正之	岐阜県先端科学技術体験センター
副会長	鈴木 隆一	NPO法人「いわむら一斎塾」理事長（欠席）
委 員	瀧 千尋	明智振興事務所長
	根崎 育郎	本校同窓会長
	安藤 一博	恵那市立明智中学校長（欠席）
	塚田 直子	恵那市恵南商工会女性部部长
	足立伊公子	えな健幸生活支援隊事務局長
	石田 宏樹	株式会社ROBOZ代表取締役（欠席）
	瀧 尚子	本校PTA代表
	堀 陽子	農事組合法人おんさい工房
オブザーバー		
	水野 正敏	岐阜県議会議員
	岡田 庄二	恵那市教育長（欠席）
	渡辺 康正	明知鉄道（株）代表取締役
	林 尚志	県立高校地域連携コーディネーター
- （敬称略）
- |       |       |     |       |        |
|-------|-------|-----|-------|--------|
| 学 校 側 | 安藤 範和 | 校長  | 河村 拓士 | 教務主任   |
|       | 柴 成吉  | 教頭  | 小栗 優来 | 進路指導主事 |
|       | 大野 和司 | 事務長 | 小島 光示 | 総合学科主任 |
|       |       |     | 上川 智草 | 記録係    |

## 5 会議の概要（協議事項）

### （1）本校の現状と取組について

1. 令和5年度学校評価アンケート結果考察
2. 生徒支援部の取組
3. 令和5年度進路状況
4. デュアルシステム
5. ふるさと教育関連事業

意見1：デュアルシステムを行っている学校は他にもあるか。

⇒東濃地区では坂下高校も今年度から実施している。他地区では八百津高校、揖斐高校などが以前から実施している。

意見2：デュアルシステムに参加した生徒が次年度以降の生徒に良さを伝える機会があると良い。

⇒1月の産社総合学習発表会でダイジェスト版を発表する予定。また、1年次生対象に選択者全員が発表する機会を設け、選択者が増えるようアピールする機会としたい。

意見3：デュアルシステムに参加する企業はどのように決めているか。

⇒企業に対しては6月の情報交換会で周知している。現在の生徒の希望を聞き取り、マッチングをしている段階。

意見4：地域サポーター運営協議会を運営している。現在地域サポーターの方が50名程度いるが、サポートする地域の方々と生徒のニーズが異なってきている感じがする。また、市の補助金を利用しているために活動に制約があると感じているサポーターの方もいるので、来年度は補助金を利用しない方向で考えている。サポーターの方が行っている「コミュニケーション講座」は好評である。デュアルシステムが始まったが、とても良い取組なので、今後さらに実践的な方向に発展していくと良い。ラリージャパン・かえでまつり等での生徒達の活躍にも期待している。

意見5：自分も地域サポーターになっているが、補助金をもらったことで会議の際にも会計報告の時間等が長く、本来の活動とは違う感じがした。本校はとても良い教育をしているが、その良さが伝わっていない。授業公開週間以外にも、地域の方が学校を見に来ることができる機会があると良い。

意見6：生徒達が直接発信し、学校の良さを伝えられると良い。メディアリテラシー、個人情報保護の問題などもあるが、SNSを活用し、6次産業での商品のPRや生徒の素直な思いが伝えられると良い。

意見7：6次産業学習については、生徒の思いと教員の思い、地域（企業）の思いが一致すると良いものになると感じる。設備、専門性の問題等で、良いものを作ろうとすると授業時間以外での活動になり負担が大きくなってしまふ点は課題。

意見8：ホームページは熱心に更新されているが、保護者向けになってしまっている感じがする。生徒が学校の良いところをアピールしていけば目線が変わってさらに良くなっていくのではないかと。SNSも活用できると良い。6次産業学習は、ビジネスと観光系列だけでなく、パッケージデザインを情報デザイン系列が行うなど、学校全体でアピールしていけると良い。

意見9：子供達から子供達へ良さを伝えられる環境があると良い。素直で良い子だけでなく、良いところも悪いところも発信して良い。

意見10：生徒会役員に多くの生徒が立候補し、選挙になったのはとても良いことだ。文化祭も見に来たが、生徒達が自信を持ってやっていた。こうした積極的な姿勢が全校に広がると良い。

意見11：ライフサポート系列で介護の免許が取れるようにするとか、新たな系列を作るとか、積極的に新たな取組をしても良い。

意見12：6次産業学習、地域サポーターは本校を応援するために始まったものなので、地域の方と協力して盛り上げてほしい。デュアルシステムは坂下高校と同時に今年度から始まったもので、本校の場合3年次で実施する点に難しさもあるが、地元就職する生徒を増やすためにも地元企業の協力を得ながら継続してほしい。

意見13：他校にも探究学習や教育課程と結びつけたマルシェの取組や、中小事業者やNPO法人と協力し、探究学習で地域に入っていく取組など様々な取組がある。いかに地域を使うか、いかに人とつながるかが重要だ。

意見14：かつて学校は外部の環境から生徒を守っていく閉鎖的なものだったが、これからは外部とのコミュニケーションを大切にされた地域に開かれた学校になっていかなければならない。本校は良い取組を多数行っているが、伝わっていない面がある。内部からの発信を強め、活性化につなげてほしい。

## 6 会議のまとめ

- ・学校評価アンケートの考察を行ったが、アンケートでは保護者および生徒から概ね高い評価を得ており、評価は年々高まっている。課題となった点については、あらためて職員で共有し、今後の学校運営に生かしていきたい。
- ・現在の教育実践や新たな取組についての理解と評価を得ることができた。特に今年度から始まったデュアルシステムに対しては関心も期待も高いので、今後さらに充実、発展させていきたい。また、今回出された提案についても実現の可能性を検討し、将来を見据えた教育活動を推進していきたい。
- ・良い取組を多く行っているが、その学校の魅力が地域に十分浸透していない、というのが委員の共通した思いであった。特に、生徒の声を活かした情報発信の有効性については複数の委員から出された意見であったので参考にし、SNSの活用なども含めて検討して情報発信に努めていきたい。